

令和7年

水稻病害虫防除情報

第1号（7月17日発行）

発行者	兵庫県農業共済組合 穴粟事務所	(0790) 60-3004
連絡先	龍野農業改良普及センター	(0791) 63-5174
	穴粟市 農業振興課	(0790) 63-3109
	ハリマ農業協同組合	
	営農経済センター	(0790) 72-1235

1 水稻の生育・気象状況

近畿地方では6月27日頃に梅雨明けしたと見られ、1951年（昭和26年）以降、最も早い梅雨明けとなります。向こう1か月の日照時間はほぼ平年並、降水量はほぼ平年並、気温は平年より高くなる傾向にあります（1か月予報：大阪管区気象台7月10日発表）。

2 病害虫調査結果（7月10日調査）北部地区

病害虫名	調査結果の概要
いもち病	一部で少程度の発生を確認しました。
紋枯病	一部で少程度の発生を確認しました。
縞葉枯病	今回の調査では確認されていません。
ウンカ類	各地で少程度の発生を確認しました。
ツマグロヨコバイ	今回の調査では確認されていません。
ニカメイチュウ	今回の調査では確認されていません。

3 調査結果詳細

令和7年度 第1回

水稻病害虫発生状況調査 結果一覧表

調査日：令和7年7月10日

天候：晴

調査地区名	作付品種	田植日	病害(抽出25株中の発病株数)								害虫発生状況								その他
			葉いもち		穂いもち		紋枯病		縞葉枯病		ツマグロヨコバイ	ヒメビウンカ	セジロウンカ	トビロウンカ	バッタ類	フタオビコヤガ	カメムシ	箱施用剤	有・無
			発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度		
上比地	コノホシ	5/18					3株	少					少				少		有
矢原	きぬむすめ	5/15					1株	少											有
杉ヶ瀬	コノホシ	5/28																	
下牧谷	キヌヒカリ	5/17									少		少						有
青木	いにしへの舞	5/30																	有
葛根	キヌヒカリ	5/30																	有
西深	コシヒカリ	5/10											少				少		有
杉田	コシヒカリ	5/10											少						有
谷	コシヒカリ	5/10	1株	少															有
西山	コシヒカリ	5/16					1株	少					少						有

※ 発生程度は、無、少、中、多、甚の5段階評価です。（病気の発生程度は病斑の進行具合により評価しています。）

4 病害虫について

(1) いもち病

今回の調査では、一部で葉いもちの発生が見られました。

7月現在、今年の天候はいもち病の感染好適条件ではありませんが、6月に好適条件となった時期もあるため、引き続き注意する必要があります。特に葉色の濃い箇所や日当たりの悪い箇所などに注意し、葉いもちが発生していないか確認してください。多発する場合は、栽培ごよみ等を参考に防除を実施しましょう。

(2) カメムシ類

斑点米の原因となるカメムシ類は、雑草が繁茂しているところに集まり繁殖します。出穂期の草刈りは、カメムシ類をほ田に追い込み、逆効果となる場合があります。多発している場合は、穂揃期頃に防除を行いましょう。

また、イネカメムシは他の斑点米カメムシ類と異なり、出穂直後から穂を加害して不稔穂が発生し減収します。出穂期に水田内で確認したら薬剤防除を検討してください。イネカメムシは広範囲に移動するため、周辺より出穂が早い、または遅い水田で集中して被害を受けやすいので、適期に防除してください。



イネカメムシ



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ



アカスジ カスミカメ



トゲ シラホシカメムシ

(3) トビイロウンカ

収穫前に坪枯れを引き起こすトビイロウンカは、7月14日現在、県内で飛来を確認されていませんが、が、株元のトビイロウンカの増殖を見逃さないようにこまめに見回り、適期防除を実施しましょう。

トビイロウンカ（秋ウンカ）とは

- 主に6月～7月の間に大陸から風によって移動型(長翅型)成虫が日本列島に飛来する
- 飛来後のほ場では、定着型(短翅型)が現れ、急激に増殖する
- イネの株元を吸汁することで被害が発生し、ひどい場合は坪枯れを引き起こす
- 気温が高く雨が少ない年には、発生が多くなる傾向がある

移動型(長翅型)



- 体長約4.5 mm
- 翅が長い
- 大陸から飛来

定着型(短翅型)



- 体長 約3 mm
- 翅が短い
- 増殖スピードが速い

5 有効な薬剤等（令和7年7月14日時点）

品種	防除時期	主な薬剤名
キヌヒカリ コシヒカリ	収穫7日前まで	ブラシン粉剤DL

☆農薬使用にあたっては必ず農薬容器・袋のラベル等の記載内容を確認して下さい。

ラベル等に表示されている適正な使用方法（農薬使用基準等）を遵守して下さい。

※薬剤に関する詳細は、龍野農業改良普及センター、ハリマ農業協同組合（上記連絡先）までお問い合わせください。

《 中 干 し 》 ①無効分げつの抑制、倒伏軽減、コンバインの作業性向上のため、中干しを行いましょう。目安は1株あたりの分げつが16本～18本程度の時期で、軽くひびが入る程度（5～7日間）を標準とします。

②中干し後は、間断かん水による水管理で根の活力を維持しましょう。

③深水が続き、茎数が抑制されている場合は、天候を見て浅水へ移行しましょう。

《 そ の 他 》 ①バッタやカメムシ類の水田侵入を減らすため、出穂2週間前までの畦草刈りを徹底しましょう。

農薬の飛散防止に努めましょう。作業中の熱中症対策を忘れずに！

次回調査予定 7月30日です